

博物館だより

2013年 夏号

| 葛飾区郷土と天文の博物館 | Katsushika City Museum

No.

1 0 7

今年の『スタ フラ』のキーワードは『やって来る』!!

宇宙からは、さまざまな天体がそんな『やって来る』天体たちそしてクイズの成績が悪いと今年も思いっきり寒くなって

地球にやって来ます。恐ろしい天体、美しい天体…。を、今年もあの男がレポートします。やって来る恐怖の罰ゲーム。もらいます。

1994年から続く、夏の風物詩

正式には『クイズ! スター&プラネット』ですが、長いので略して『スタフラ』と呼ばれるようになりました。スタフラは、座席の回答ボタンでクイズに答えながら展開する参加型のプラネタリウム。派手な音や映像、ハイテンションなナレーション、成績によって変わる結末など、これまでのプラネタリウムのイメージを覆した番組です。

『クイズ! スター&プラネット』の第1作が登場したのは、なんと19年前の1994年。それ以来、ほぼ毎年夏ごとに新作が登場し、今回はその18作目となりました。プラネタリウム界でも前代未聞の超長寿番組です。今では完全に当館の夏の風物詩として定着し、「スタフラを見ないと夏が始まらない」とおっしゃるお客様も。

クイズのルール

クイズの答え方は簡単。問題が出題されたら、座席の右側にあるひじかけの3つのボタンの中

から、正解だと思うボタンを押すだけ。

その問題で、正解を押した方が1番多かつたら20ポイントをゲット。正解よりも他の選択肢を押した人が多かつたらポイントはゲットできません。

そして、最終問題が終わった時点の総合ポイントが60ポイント以上なら『ごほうび』、そして60ポイント未満だと『あのメロディー』とともに恐怖の『罰ゲーム』を体験していただきます。

『ごほうび』『罰ゲーム』の内容はヒミツ。知っている人は決して他の人に教えないように。



注意



スタフラは『普通のプラネタリウム番組』ではありません。静かでロマンチックな雰囲気ではないし、眠れません。

癒されません。星空案内は少しだけです。目が回ったり、『寒く』感じる場合があります。まずは『普通のプラネタリウム』のイメージを忘れてください。そうすれば、きっと楽しんでいただけるでしょう。

ナビゲーターは、あの男



スタフラのナビゲーターと言えば、伊津野亮(いづのりょう)さん。テレビ『はなまるマーケット』『ぶっすま』やbarymなどで活躍中です。スタフラでは、1994年以来、ハイテンションなナレーションにオヤジギャグを交えながら、宇宙のさまざまな場所からクイズを出題します。

QUIZ! STARS & PLANETS

クイズ! スター&プラネット

番組中のイベント

練習問題

まず最初に、クイズの答え方を確認するための『練習問題』が出題されます。問題は簡単ですからご安心を。

今夜の星空解説

最初のステージに出かけるまでの間、短いですが、当日夜9時の星空の見どころを生解説で紹介します。

ボーナスポイント/減点

出題されるクイズの中で1問だけ、正解すると20ポイントのボーナスが出る問題があります。ただし、間違えると20ポイント減点されてしまいます。

早押しクイズ

制限時間がとても短いクイズが次々と出題されます。考えている余裕はほとんどなく、反射的に回答しなければなりません。早押しクイズが終わった頃には、頭の中が真っ白になっているかも知れません。

最終問題(ファイナルクイズ)

観客の運命は、最後のステージで出される最終問題の成績で大きく左右されます。しかもこの最終問題、毎年かなり難しく、この問題のせいで罰ゲームとなることも少なくありません。

ボーナスクイズ

『ある条件』をクリアすると、『ボーナスクイズ』を楽しむことができます。制限時間は短めですが、問題は簡単です。

さあ、今年もチャレンジを

最新作『クイズ! スター&プラネット2013』は、7月20日(土)から9月1日(日)まで放映。

今年も地球や宇宙、さまざまな場所を旅しながら数々のクイズに挑戦していただきます。

『あの男』とともに、あなたの挑戦をお待ちしています。

※番組についての詳細・放映スケジュールは博物館のホームページをご覧ください。



肥やしの底チカラ

特別展

江戸時代、世界最大の都市といわれていた江戸。田園都市でもあった江戸の町は緑地帯や農村を町の内部や周辺に持っていました。葛飾区はその周辺の農村の一つとして発展してきました。江戸周辺の農村の役割の一つは、町に住む人たちに野菜などの食糧を供給すること、そして町の生活廃棄物を「肥やし」という形で使い、環境を衛生的に保つことでした。

博物館では、平成16年度に特別展「肥やしのチカラ」を開催し、葛飾区が江戸の町から排出される人糞尿を下肥として利用し、質の高い野菜を生産して町の人たちに還元してきた歴史を紹介しました。

今回の特別展、「肥やしの底チカラ」は前回の「肥やしのチカラ」をさらにグレードアップし、新たに発見された資料をもとに、江戸・東京と近郊の農村の間の下肥を通じた交流を明らかにします。

1 都市と下肥

江戸の町から排出された人糞尿は、どのように取り引きされ、どのように運ばれてきたのでしょうか。江戸近郊に残る古文書などから明らかにします。



下肥を運ぶ車
(昭和20年代、撮影者不明)

また、大正時代の終わりには東京の人口がいつそう増え、東京の人糞尿は近郊の農村で肥料として使うだけでは処理しきれなくなりします。東京を始め、日本の大都市では現代も使われている下水道などの施設を使って人糞尿を処理することを研究するようになりました。

その過程で設立された葛飾区小菅の綾瀬衛生研究所の資料が、このたび発見されました。こうした近代都市の衛生行政に関する歴史も紹介します。

2 下肥の記憶

下肥を実際に田畑で使い、米や野菜を作ってきた人たちの貴重な体験談から、下肥という肥料の便利なところ、苦心したところなどをみていきます。

湿地の多かった葛飾区では、蓮根などを栽培するために大量の下肥を使ってきました。

そのほかハナシヨウブや金魚など、思いもかけないところにも下肥が大量に使われていました。

今では忘れられかけている下肥を使う技術を記録していきます。



3 トイレと下肥

昭和初期まで日本のトイレは下肥利用を前提として作られ、さまざまな改良が行われてきました。衛生的であることと、下肥を使うことを両立させるのはたいへん難しいことでした。回虫などの寄生虫やハエなどの害虫の温床でもあった下肥を少しでも上手に利用するために、トイレを作るメーカーは研究を重ねてきました。こうした近代日本のトイレ作りの歴史を「下肥」という窓口から再検討します。



▲肥溜めから下肥をくむ様子
(平成2年、東水元、当館学芸員撮影)

4 下肥の未来

下肥にはまだまだ未来があります。化学肥料や未来の農業を研究する最前線の立場から「下肥的な」肥料が注目されています。食糧を生産する農業という産業は人類の未来を支える役割があります。その農業の未来に先人の生活の知恵である下肥をどのように活用していくことができるのでしょうか。

ネギ作りでの施肥の模様
(昭和20年代、金町、長谷 清治氏より寄贈)

▲綾瀬川を航行する下肥運搬船
(昭和20年代、撮影者不明)

併催企画

記念講演会

「トイレと日本人」

日時 8月25日(日) 14時〜16時

出演 平田純一氏(日本トイレ協会 名誉会長)

「人のくらしと寄生虫」

日時 9月7日(土) 14時〜16時

出演 巖城 隆氏(公益財団法人 目黒寄生虫館 研究員)

「便所を変える」

「二十世紀の生活改善プロジェクト」

日時 9月14日(土) 14時〜16時

出演 小峰 園子 (当館専門調査員)

特別展記念バスツアー

「大都市東京 下水のゆくえ」

小菅水再生センター、小平市ふれあい下水道館などをバスで巡ります。

普段見ることのできない施設の裏側が見学できます。

日時 8月24日(土) 8時〜18時

※詳細については、「広報かつしか」や「博物館ホームページ」でお知らせします。

会期

平成25年

8月4日(日) — 9月16日

月・祝

会場

葛飾区郷土と天文の博物館

特別企画展示室ほか

設備工事による休館のお知らせ



日頃は葛飾区郷土と天文の博物館をご利用頂きありがとうございます。

葛飾区郷土と天文の博物館は
設備工事のため、

平成25年10月1日(火曜日)から

平成26年4月上旬ごろまで休館します。

ご不便をおかけしますが、
ご協力をお願いします。



葛飾区郷土と天文の博物館ご利用案内

開館時間

午前9時～午後5時

(金・土曜日は午後9時まで開館。ただし金・土曜日が祝日の場合、午後5時に閉館。入館は閉館の30分前まで)

休館日

月曜日、第2・4火曜日

(月曜祝日は開館。火曜祝日は開館し翌日休館)

入館料

大人 100円 小・中学生 50円 幼児無料

(毎週土曜日は中学生以下無料。20人以上の団体は2割引)

プラネタリウム観覧料

大人 350円 小・中学生 100円

幼児(座席を使う場合) 50円

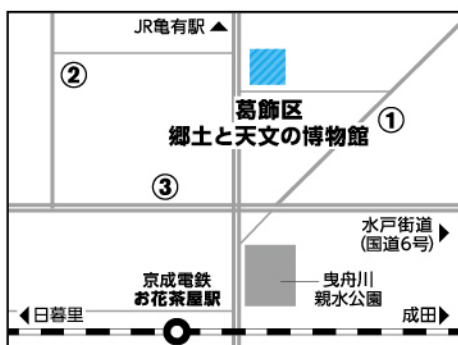
(毎週土曜日は中学生以下無料。20人以上の団体は2割引)

年間パスポート

大人 2000円 中学生以下 700円

購入から1年間、入館とプラネタリウムが見放題になる大変お得なパスポートです。購入時にご希望があれば、当館からのおたよりを1年間お送りします。

アクセス



電車 京成線「お花茶屋」駅から徒歩8分

- バス**
- ① 「レインポーかつしか」(有71・有72系統)または京成タウンバス(有70系統)で「白鳥わかば公園」バス停下車 徒歩3分
 - ② 京成タウンバス(有57系統)で「上千葉小学校」バス停下車 徒歩5分
 - ③ 京成タウンバス(有57系統)で「共栄学園」バス停下車 徒歩5分

博物館だより

発行

葛飾区郷土と天文の博物館

〒125-0063

東京都葛飾区白鳥3-25-1

電話：03-3838-1101

FAX：03-5680-0849

Web：http://www.museum.city.katsushika.lg.jp/